

# ヴィッセル神戸、選手のコンディションやパフォーマンスなど多岐にわたる分野でDomoをフル活用



©2005 VISSEL KOBE

ヴィッセル神戸は、日本の兵庫県神戸市をホームタウンとする、日本プロサッカーリーグに加盟するプロサッカークラブです。

2023年と2024年には日本プロサッカーリーグ（J1リーグ）連覇を達成。さらに、2019年と2024年には天皇杯でも優勝を遂げています。

[www.vissel-kobe.co.jp/](http://www.vissel-kobe.co.jp/)

主なデータソース



試合のスタッツデータ  
選手のフィジカルデータ  
GPSの収集データなど

## 1.ビジネス背景

サッカークラブ「ヴィッセル神戸」は1995年に設立され、2017年頃から世界的な選手の加入を契機に、スタジアムの観客数が増加。入場料収益や営業収益も伸び、ビジネスボリュームが急拡大した。

## 2.導入前の課題

ビジネスボリュームが急拡大したにもかかわらず、クラブ運営/基盤の部分は旧態依然としたままであった。また、毎年、選手や監督が入れ替わるサッカークラブが、それでも常勝軍団であり続けるために、属人的な意思決定に依存しすぎず、データに基づく意思決定も取り入れていくことが求められた。

## 3.なぜDomo？

楽天グループ株式会社がすでにDomoを導入していた点や、Domoが1,000以上のデータコネクターを持ち、楽天エコシステムをはじめとする多くのシステムと連携がしやすい点、さらに、モバイルファースト仕様のDomoがスポーツビジネスにおける職場環境（スタジアムなどの利用）に適していた。

## 4.優勝に向けたデータ活用

いままで蓄積してきた「チームの資産となるデータ」の活用をはじめ、監督や選手へのデータの伝え方や見せ方に創意工夫を重ね、データ活用の最適化を図ってきた。その一つひとつの積み重ねが結果へとつながり、2023年のJ1リーグ初優勝に大きく貢献。

2024年は選手のコンディションやパフォーマンスなど多岐にわたる分野でDomoをフル活用し、データ活用の「成長期」となった。

データの役割、定量と定性のバランス、データの効果的な見せ方など、データ活用が洗練されることで、組織改革が一気に推進され、連覇を手繰り寄せた。

## 5.活用例:チームのパフォーマンスや選手のコンディション管理

これまで蓄積してきたチームの資産となるデータを活かし、選手のコンディションやパフォーマンス管理に役立てている。

**活用例 1：**チームのパフォーマンスに關するKPIを設定し、勝つための重要指標やチームスタイルの重要指標を可視化。チームの状態を定量的に把握し、より深い分析に繋げている。

**活用例 2：**試合や練習における選手の負荷を可視化し、蓄積されたデータとの比較をもとに、フィジカルコーチに怪我のリスクを事前に共有することで、怪我の予防や防止に繋げている。

**活用例 3：**筋肉量や体脂肪などの重要指標を選手ごとにDomoでモニタリングしている。異常値が検出された場合はDomoのアラート機能によって、自動的に通知される。これにより、選手の状態の急な変化を見逃すことなく、タイムリーなリカバリーができています。

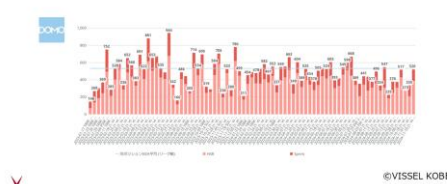
### 成長期：活用例①

勝つための重要指標や、チームスタイルにおける重要指標を選定し可視化。チームの健康状態を監視し変化を捉え、より深い分析の足掛かりに活用。



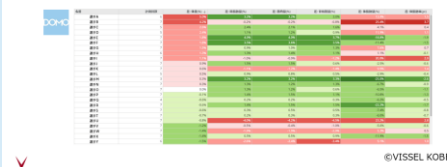
### 成長期：活用例②

試合や練習における負荷を可視化。蓄積されたデータとの比較を元に、怪我のリスクをフィジカルコーチが評価。



### 成長期：活用例③

筋肉量や体脂肪などの重要指標を可視化。変化量によってDomo上からアラートを飛ばし、異常検知〜リカバリーをスムーズに実施。



“

モバイルファースト仕様のDomoは、携帯端末でもストレスなく最新情報にアクセスでき、チームに関するタイムリーな情報を重視しているヴィッセル神戸に最適です。

今後もDomoを活用して、データに基づく意思決定へとビジネスのあり方を変革していきます。

”



**千布勇氣氏**  
楽天ヴィッセル神戸株式会社  
代表取締役社長